

地 理 歴 史

1 学習指導と評価の改善・充実

(1) 学習指導と評価の改善・充実の視点

地理歴史科においては、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深めさせ、歴史的思考力や地理的な見方や考え方を培うことが求められている。このことから、地理歴史科の各科目の学習指導においては、内容を厳選し重点化を図るとともに、学び方を学ぶ学習や課題解決的な学習をより一層充実させることにより、基礎的・基本的な知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などを育成することが大切である。

評価については、生徒一人一人の学習状況を適切に評価するため、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「資料活用の技能・表現」「知識・理解」の4観点を基本にして、学習指導要領に示す目標などに照らし、目標に準拠した評価を一層進める必要がある。

また、評価の結果を、後の学習指導の改善に生かすなど、指導と評価の一体化を進めることが大切である。

(2) 平成15年度教育課程実施状況調査の結果の概要(平成15年度教育課程実施状況調査の結果のポイントから作成)

	調査結果の特色	指導上の改善点
世界史A	西ヨーロッパの国家の起源について、基本的な事項の知識・理解が十分とはいえない。 資料を活用して考えたり、考えたことを文章で表現したりする能力の育成が十分とはいえない。	世界史を学ぶ意義を実感させるような指導の充実を図るとともに、生徒の世界史学習への関心を高めるよう工夫する。 自分の考えをレポートや報告書にまとめさせたり、考えたことや調べたことを発表させたりする指導を日々の学習に積極的に取り入れる。
世界史B	人類が直面する課題を「ふだんの生活や社会生活の中で役に立つ」と肯定的に回答した生徒が多い。 「テーマを設けて調べたり討論する学習」、「自分の考えたことや調べたことを発表する学習」について「ほとんど又はまったく行っていない」と回答した生徒が半数以上いる。	近現代史においては、現代の世界の理解に役立つ主題を課題として追究させる指導の工夫をする。 課題解決的な学習を取り入れた授業、テーマを設けて調べる学習を取り入れた授業など、生徒の学習意欲を高めるための工夫改善をする。
日本史A	歴史的事象を歴史の展開の中に位置付けて理解することが十分とはいえない。 グラフ等の資料の意味を読みとり、時代の特色を考察することや、歴史的事象を地理的な特色と関連させて考察する学習が十分とはいえない。	年表を作成させたり、身近な地域の歴史と我が国全体の歴史を関連させたりする指導を工夫する。 歴史的事象を多角的・多面的に考察させるために、地図、文献、写真、統計、グラフなどの資料から様々なことを読み取る学習を積極的に取り入れる。
日本史B	近現代史に関する基本的事項の理解が十分とはいえない。 また、複数の資料を考察する力が十分とはいえない。 「武家政権の成立と文化の新気運」では、教師は「興味を持ちやすい」と回答する一方で、生徒は「きらいだった」と答えるなど、教師と生徒の意識の違いがある。	テーマを決めて生徒に年表を作成させたり、生徒の興味や関心のある主題を設定して学習させる。 歴史学習への興味を持たせ、理解を深めさせるよう、生徒の理解の状況を把握したり、教材開発に努めるとともに、多様な指導方法の一層の工夫改善を図る。
地理A	世界的な視野から大観したり、地域的特色を他地域と比較したりする学習が十分とはいえない。 世界の地理的認識に欠かせない手だてである地図や地球儀が、十分に活用されていないと考えられる。	地理的事象を世界的な視点から大観する学習と具体的な事例を通して追究する学習とを、組み合わせて扱うよう工夫する。 教科書の地図や地図帳、地球儀などを積極的に使って諸事象の位置や空間的な広がりを確認させたり、一般図や主題図などを活用させたりする学習活動を取り入れる。
地理B	地域に関する情報を地図化したりグラフ化したりする作業的な学習活動が十分とはいえない。 自然環境や社会環境にかかわる基礎的な地理的事象について、意味内容の理解が不十分であり、知識として身に付いていないと考えられる。	地理情報の処理や表現に関する技能、特に地理的事象を適切に地図化する技能など、地理的な技能を身に付けさせる学習活動を、年間指導計画の中に位置付ける。 基礎的な地理的事象については、一つの項目での指導だけでなく、関連する項目においても繰り返し取り上げるよう工夫し、他の事象と関連付けるなど、多面的・多角的に考察させながら身に付けさせる。

(3) 学習指導と評価の改善・充実の方策

ア 基礎的・基本的な知識・概念を身に付けさせる指導

網羅的で知識偏重の学習にならないように留意するとともに、具体的な事例と概念を関連付けた指導を行うなど、基礎的・基本的な知識や概念を身に付けさせる学習指導の充実を図る。

イ 生徒の主体的な学習活動を取り入れた指導の工夫

歴史科目における主題を設定し追究する学習や、地理科目における学び方調べ方の学習などを指導計画に明確に位置付けるとともに、各種資料の利用、観察、見学、調査などの作業的・体験的な学習を導入するなど、生徒の主体的な学習活動を取り入れた指導の充実を図る。

ウ 評価方法の改善・充実

評価に当たっては、知識の量にとどまることなく、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力までを含めた学習の到達度を適切に評価することが求められている。例えば、ワークシートやペーパーテストなどを用いた評価においては、「知識・理解」だけに偏ることなく、「思考・判断」、「資料活用の技能・表現」などの観点を踏まえた評価を取り入れるなど、評価方法の改善・充実を図る。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～ 思考力、判断力、表現力等を育成する取組～

(1) 各科目の評価計画表の例

ア 世界史 B

科目名	世界史 B			
大項目名	(5)地球世界の形成	中項目名	ア 二つの大戦と世界	
単元の目標	二つの大戦と総力戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現と全体主義、世界恐慌と資本主義の変容、アジアの民族運動などを扱い、20世紀前半の世界の動向と社会の特質を理解させる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
内容のまとめと評価規準	20世紀前半の世界の動向と社会の特質に対する関心を高め、意欲的に追求しようとしている。	20世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察し、その歴史的意義を判断している。	20世紀前半の世界の動向と社会の特質に関する資料を活用するとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。	20世紀前半の世界の動向と社会の特質について理解し、その知識を身に付けている。
評価規準の具体例	・二つの大戦と総力戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現と全体主義、世界恐慌と資本主義の変容、アジアの民族などに対する関心を高め、20世紀前半の国際関係と社会の特質について意欲的に追求しようとしている。	・20世紀前半の国際関係と社会の特質について考察し、二つの大戦と総力戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現と全体主義、世界恐慌と資本主義の変容、アジアの民族運動などの歴史的意義を判断している。	・二つの大戦と総力戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現と全体主義、世界恐慌と資本主義の変容、アジアの民族などに関する資料を活用するとともに、20世紀前半の国際関係と社会の特質について追究し考察した過程や結果を適切に表現している。	・20世紀の大変動の起点としての第一次世界大戦とロシア革命について理解し、その知識を身に付けている。 ・アメリカ合衆国の影響力の増大、世界恐慌の世界情勢に与えた影響について理解し、その知識を身に付けている。 ・第二次世界大戦の複合的な性格、戦争の広域化と惨禍について理解し、その知識を身に付けている。 (一部、省略)
指導段階	学習活動	評価の観点 関 思 技 知		学習活動における評価規準
展開 (第2時) (第3時)	二つの大戦について、両大戦の特色や相違点を資料を用いて比較し、考察した結果をまとめる。 世界恐慌が世界の国々に与えた影響と当時の経済情勢を資料から読み取る。			・地図を完成させる作業を通して、第一次世界大戦と第二次世界大戦の相違点を適切に表現している。 ・世界恐慌当時の貿易額及び失業率の推移を、資料等からの確に読み取り、考察した内容をまとめている。
				ワークシート

イ 日本史 B

科目名	日本史 B				
大項目名	(5) 近代日本の形成とアジア		中項目名	ア 明治維新と立憲体制の成立	
単元の目標	文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化に着目して、開国、明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでの我が国の近代化の推進について考察させる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解	
内容のまとめと評価規準	開国から明治時代の近代日本の歩みに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	開国から明治時代の近代日本の歩みから課題を見だし、アジアにおける国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	開国から明治時代の近代日本の歩みに関する諸資料から、情報を選択して活用することや、博物館や文化遺産の活用を通して、歴史的事象を追究する方法を身に付け、考察した過程や結果を適切に表現している。	開国から明治時代の近代日本の歩みに関する基本的な事柄をアジアにおける国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
評価規準の具体例	・開国から立憲体制が成立するまでの我が国の近代化の推進に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。	・開国から立憲体制成立までの我が国の近代化の推進から課題を見だし、欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化と関連付けて多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を公正に判断している。	・開国から立憲体制成立までの我が国の近代化の推進に関する文献、地図、写真、統計などの諸資料から、情報を選択して活用することを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けている。	・開国から立憲体制成立までの我が国の近代化の推進に関する基本的な事柄を欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。	
指導段階	学習活動		評価の観点 関 思 技 知	学習活動における評価規準 評価方法	
展開 (第4時) (第5時)	資料を活用して、政治制度の整備や立憲体制の成立までの過程を読み取り、考察したことをワークシートにまとめる。 前時の学習を踏まえ、教育制度と大日本帝国憲法について、資料をもとに考察する。			・北海道との関連も踏まえて、資料の読み取りから近代化の過程を考察している。 ・政府要人の出身藩の視点から、明治期の政治の背景を適切に読み取っている。 ・資料をもとに、明治期の教育と国民の様子や、大日本帝国憲法と日本国憲法との関連を意欲的に追究している。	ワークシート

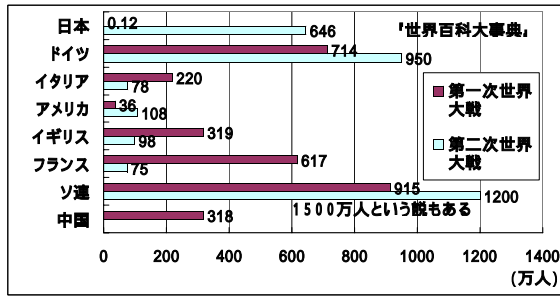
ウ 地理 A

科目名	地理 A				
項目名	(2) 地域性を踏まえてとらえる現代世界 ア 世界の生活・文化の地理的考察 (ア) 近隣諸国の生活・文化と環境				
単元目標	近隣諸国の生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用・表現	知識・理解	
内容のまとめと評価規準	近隣諸国の生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。	近隣諸国の生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。	近隣諸国の生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。	近隣諸国の生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。	
評価規準の具体例	・東アジアの生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。	・近隣諸国の生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。	・近隣諸国の生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。	・地域性の追及や文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。	
指導段階	学習活動		評価の観点 関 思 技 知	学習活動における評価規準 評価方法	
展開 (第3時) (第4時)	中国の生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。			・中国の生活・文化の特色を追究し、日本との共通性、異質性を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに、近隣諸国の生活・文化を理解し尊重することが必要であることについて考察させる。	ワークシート

(2) 各科目のワークシートとその評価方法の具体例

世界史B 「二つの大戦と世界」で使用するワークシートの工夫例

1 次の資料と絵を見て、次の設問に答えなさい。【関心・意欲・態度】



絵 (一次大戦で登場した新兵器)

・資料と絵を見て感じたことを、それぞれまとめて書きなさい。

資料から	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦では日本、ドイツ、ソ連で多くの死傷者が出ている。 二つの大戦を合わせるとソ連、ドイツの死傷者が特に多くなっている。 二つの大戦で、日本は現在の北海道の人口以上の人が亡くなっている。
絵から	<ul style="list-style-type: none"> 一度に多くの命を奪うことのできる兵器が登場した。 製造に多額の資金が必要だったと思う。

・資料と絵を見て、調べてみたいと思うことを書きなさい。

第一次大戦の死傷者が多い国、第二次大戦の死傷者が多い国、二つの大戦とも死傷者が多い国があるので、それぞれの国がどのように戦争にかかわって、どうして死傷者数違いがあるのかを調べてみたい。また、どうしてこのような新兵器をつくることができたのか、当時の技術や国のお金のかけ方について調べてみたい。

2 次の白地図に、二つの大戦のグループをわかりやすく表現しなさい。また、その地図から読み取れることをまとめて書きなさい。【資料活用・表現】

地図A 「第一次世界大戦のヨーロッパ」



・同盟国は■、連合国は□、中立国は□とした。

地図B 「第二次世界大戦のヨーロッパ」



・枢軸国は■、連合国は□、中立国は□とした。

・スペイン、スイスはいずれの戦争も中立国だった。どのようにして中立の立場を守れたのかを知りたい。
 ・イギリスとフランスはいずれの戦争も同じグループだった。
 ・第一次世界大戦では別のグループだったドイツとイタリアが、第二次世界大戦では同じ枢軸国になった。どのような理由かを知りたい。

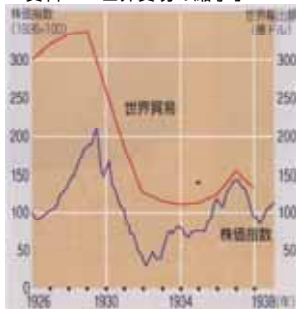
3 第一次世界大戦後に設立された国際機関について、設問に答えなさい。【知識・理解】

1919年に結ばれたヴェルサイユ条約で、アメリカ合衆国ウィルソン大統領が提案し、設立が決められた組織を - から選びなさい。また、この組織が設立された理由とこの組織がかかっていた問題点を書きなさい。

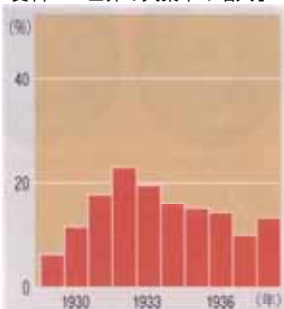
選んだ記号 ()	理由	第一次世界大戦の反省から、世界の平和を確保するため。
国際連盟	問題点	大国の不参加と総会が全会一致の原則を取っていたため、国際機構としての役割を十分果たせなかった。
国際連盟		
安全保障理事会		

4 世界恐慌について、次の資料1.2.3を活用しながら、あなたの考えを書きなさい。【思考・判断】

資料1 「世界貿易の縮小」



資料2 「世界の失業率の増大」



資料3 「重要事項年表」

年代	事項
1919	ヴェルサイユ条約
1920	国際連盟発足
1921	ワシントン会議 (~22)
1926	独・国際連盟加盟
1928	パリ不戦条約
1929	世界恐慌おこる
1930	ロンドン軍縮会議
1933	ニューディール政策、日、独、国際連盟脱退
1939	第2次世界大戦勃発

資料1から、1929年から急激に世界輸出額が減少して、株価指数も低下していることがわかる。資料2を見ると、恐慌により失業率が上昇したことがわかる。その後も、長い間不況が続いている。資料3やこれまで学習してきたことから、1919年にヴェルサイユ条約が結ばれ、翌年に国際連盟もできたのだが、世界恐慌が始まってから世界貿易が縮小し、国際協力がうまくいかなくなっていったようだ。

1の評価について
 資料から第一次世界大戦と第二次世界大戦の死傷者数を適切に読み取るとともに、新兵器の性格を的確に判断している。また、それぞれの戦争における死傷者数の変化や新兵器の登場に着目し、各国の戦争へのかかわり方や、総力戦としての性格につながる関心を示していることから評価をAとした。
 評価Cの生徒に対しては、それぞれの戦争の死傷者数の違いを示しながら、資料を読み取る方法を理解させるとともに、絵にある新兵器が登場した背景等を具体的に示して、単元の学習に対する関心や意欲を高める。

2の評価について
 第一次世界大戦の連合国、同盟国、中立国及び第二次世界大戦の連合国、枢軸国、中立国をわかりやすく塗り分け地図を完成させるとともに、二つの大戦における各国の関係や動向を適切にまとめ、中立国の立場を追究しようとしていることから評価をAとした。
 評価Cの生徒に対しては、教科書や資料集の参考となる部分を示し、それぞれの国に着目させ、二つの大戦で、どのグループに属したかを再度作成させるとともに、その違いに着目させ、読み取れることをまとめさせる。

3の評価について
 国際連盟を選択し、理由を正しく理解していること、国際連盟がその役割を十分果たせなかった点を答えることができていたことから評価をAとした。
 評価Cの生徒に対しては、恒久平和及び大規模な国際機構の意義を再度説明し、国際連盟の目的、組織などを、教科書の記述からまとめさせる。

4の評価について
 資料から世界恐慌のもたらした世界貿易の停滞や失業率の増加を的確に読み取るとともに、恐慌が国際対立の要因となったことを考察していることから評価をAとした。
 評価Cの生徒に対しては、教科書や資料集の参考になる部分を示し、資料の活用の仕方や説明内容のまとめ方の指導をして、再度調べさせる。

日本史B 「明治維新と立憲体制の成立」で使用ワークシートの工夫例

1 次の資料A、Bを参考にして、我が国の立憲体制の成立について考えよう。【思考・判断】

【資料A】

政策	本土実施年	北海道実施年等
廃藩置県	1871(明治4)年	1869年 開拓史設置 1882年 札幌県、函館県、根室県設置
徴兵令施行	1873(明治6)年	1898年 全道に試行
地租改正施行	1873(明治6)年	1876年 一部開始 1877年 北海道地券発行条例
衆議院議員選挙法施行	1890(明治23)年	1902年 札幌、小樽、函館より逐次実施

【資料B】

年代	政治・経済・社会の出来事
1882年	華族令制定
1885年	内閣制度を制定
1888年	市制・町村制公布
1889年	大日本帝国憲法発布
1890年	府県制・郡制公布
1894年	日清戦争
1895年	下関条約調印 三国干渉
1897年	金本位制確立

ア 次の資料A、Bについて、読みとれることや考えたことを書きなさい。

A	明治政府の諸政策は全国一斉に実施されたと思っていたが、北海道では遅れて実施されたことがわかった。特に、徴兵令は16年、衆議院選挙も12年遅れており、なぜ、遅れたのか疑問に思う。
B	府県制・郡制ができる前に、市制・町村制ができている。また、大日本帝国憲法が発布される前に内閣制度ができている。大日本帝国憲法で内閣がどう規定されているか調べる必要があると思った。

イ 資料A、Bの2つの資料から、読みとれること、考えたことを書きなさい。

憲法が出来る前に、地方政治の大まかな仕組みや、内閣制度、税制、兵制ができあがっていることがわかった。当時の政府が、できるところから近代化を進めていたと考えられる。

2 次の資料A、Bを参考にして、明治維新から立憲体制の確立までの過程について考えよう。【資料活用・表現】

【資料A】藩閥政府(1871年)

役職	氏名	出身藩	役職	氏名	出身藩
大政大臣	三条実美	公卿	文部大臣	大木喬任	肥前
参議	木戸孝允	長州	文部大輔	江藤新平	肥前
参議	西郷隆盛	薩摩	工部大臣	欠員	
参議	板垣退助	土佐	工部大輔	後藤象二郎	土佐
参議	大隈重信	肥前	司法大臣	欠員	
外務大臣	岩倉具視	公卿	司法大輔	佐々木高行	土佐
外務大輔	寺島宗則	薩摩			
大蔵大臣	大久保利通	薩摩			
大蔵大輔	井上馨	長州			

【資料B】第1次伊藤内閣(1885年)

役職	氏名	出身藩
総理大臣	伊藤博文	長州
外務大臣	井上馨	長州
内務大臣	山県有朋	長州
大蔵大臣	松方正義	薩摩
陸軍大臣	大山巖	薩摩
海軍大臣	西郷従道	薩摩
司法大臣	山田顕義	長州
文部大臣	森有礼	薩摩
農商務大臣	谷干城	土佐
逓信大臣	榎本武揚	幕臣

ア 次の資料A、Bの2つの資料から、政府要人の出身藩がどのように変化したかを書きなさい。

1871年には、政府要人の出身藩が薩摩・長州・土佐・肥前のみで、ほぼバランスが取れているが、1885年には薩長中心となり、薩長以外は土佐・幕臣それぞれ1名で、肥前については0名である。
--

イ また、変化した要因を教科書などを参考にして、まとめなさい。

1873年の征韓論争により後藤象二郎、板垣退助、江藤新平らが参議を辞職した。また、1881年の明治十四年の政変で大隈重信が政府を追放されたりしたことにより、薩摩長州の政府へ変化した。

3 次の資料を読んで考えよう。【関心・意欲・態度】

【寺子屋から小学校へ】

江戸時代には多くの寺子屋があり、庶民の子どもが読み書き算を習う習慣が広まっていた。これに対して新政府は、身分の差、男女の差なく、6歳以上の子どもをすべて学校に通わせる義務を国民に負わせた。やがて、全国の村々にはくまなく小学校が設置され、定められた科目を時間割にそって学ぶ一斉授業が行われるようになった。しかし、子どもを通学させることに対する反発も強く、政府の督促や強制にもかかわらず、就学率はなかなか上がらず、1880年代になっても50パーセントにも満たなかった。

資料を読んで、考えたこと、疑問に思ったことを書きなさい。

- ・親が子どもを小学校に通学させることになぜ反対したのか。不利益はないと思うので不思議である。
- ・日本で、すべての子どもが小学校に行くようになったのはいつ頃で、きっかけは何なのだろうか。
- ・明治時代の小学校では子どもたちにどんな科目を教えたのだろうか。

4 次の資料を読んで考えよう。【思考・判断】

【大日本帝国憲法】

第一条	大日本帝国は万世一系の天皇之を統治す
第三条	天皇は神聖にして侵すべからず
第五条	天皇は帝国議会の協賛を以て立法権を行う
第二十条	日本臣民は法律の定むる所に従い兵役の義務を有する
第二十一条	日本臣民は法律の定むる所に従い納税の義務を有する
第二十二条	日本臣民は法律の範囲内に於いて居住及移転の自由を有する
第三十七条	凡て法律は帝国議会の協賛を経るを要す

資料から条文の一つを選び、日本国憲法の内容と比較したり、考えたりしたことを書きなさい。

選んだ条文・・・第二十一条
納税の義務は、国民の義務として両方の憲法に共通して規定されている。税制は、国の政治の根幹なので、時代が変わっても憲法に規定されるのだと思う。また、我が国の近代化と税制の関係を調べるために、国民の階層ごとの税負担の違いや、歳入に占める地租の割合も調べる必要があると思う。

1の評価について

2つの年表を比較し、政治制度の整備の様子を適切に読み取り考察していることから評価をAとした。
評価Cの生徒に対しては、年表を読み取る方法を理解させるために、廃藩置県や内閣制度など、年表の着目点を示して、何を調べればよいか考えさせる。

2の評価について

2つの資料について、着眼点を絞って適切に読み取っており、政府要人の出身藩の変化についても教科書の内容を適切にまとめていることから評価をAとした。
評価Cの生徒に対しては、明治政府を代表する人物について調べさせて興味を持たせ、征韓論等の政争についても調べさせるなど、学習に対する意欲を喚起させた後、再度、資料の読み取りをさせる。また、教科書や資料集にある他の年表やグラフ、図表から明治政府の変化等について読み取る練習をさせる。

3の評価について

庶民が教育の普及・拡充に反対する理由について意欲的に追究しようとしており、近代産業の発展や近代文化の形成の基盤となった高い就学率や教育内容に対する課題意識を持っていることから評価をAとした。
評価Cの生徒に対しては、同じような「庶民」と「政府」の対立した例(地租改正、徴兵令等)について、教科書、資料集等の内容を再度読み取らせ、ノートにまとめさせる。

4の評価について

納税の義務を取り上げるとともに、税制と我が国の近代化を多面的・多角的に考察しようと課題を見出していることから評価をAとした。
評価Cの生徒に対しては、示されている条文と、その条文に対応する日本国憲法の条文を比較させ、違いや共通点に着目させて、条文の内容を考えさせるよう適切なアドバイスをする。

地理A 「近隣諸国の生活・文化と環境」で使用するワークシートの工夫例

- 1 下のAとBの写真は1978年と2000年のシャンハイの写真です。Aに比べてBの変化したところについて、気付いたことと疑問に思ったことを書きなさい。【関心・意欲・態度】



A 1978年



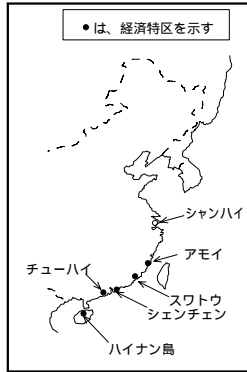
B 2000年

・自転車に乗っている人がいなくなり、女性の服装もとてもおしゃれになった。また、ビルが高層になり、町並みが近代的になった。

・このような風景は中国のどの地域でも見られるのだろうか。

- 2 右図中のシャンハイは「経済技術開発区」に指定されています。中国には、他に、「経済特区」に指定されている地域があります。「経済特区」について説明し、「経済特区」に指定されている5カ所を例に従い右図に書き込みなさい。【知識・理解】

外国の資本や技術の導入を目的に経済的な優遇措置が与えられた中国領内の特別地域のこと。近代化政策の一環として1979年以降設定された。現在、沿岸の5カ所に設定されている。

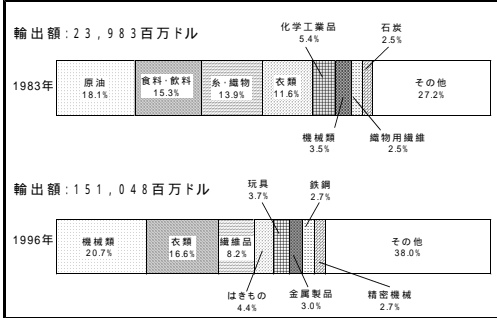


- 3 下の表を用いて、表計算ソフトを使ってグラフを作成しなさい。また、表やグラフから読み取ることができることを書きなさい。【資料活用の技能・表現】

中国の主要輸出品目の変化

1983年		1996年	
輸出品目	輸出(百万ドル)	輸出品目	輸出(百万ドル)
原油	4351	機械類	31273
食料・飲料	3671	衣類	25101
糸・織物	3333	繊維品	12318
衣類	2780	はきもの	6705
化学工業品	1285	玩具	5579
機械類	848	金属製品	4543
織物用繊維	606	鉄鋼	4068
石炭	588	精密機械	4016
その他	6521	その他	57445
計	23983	計	151048

世界国勢図会より作成



・わずか十数年で、輸出額が6倍以上にのびている。

・原油や石炭が主要輸出品ではなくなった。

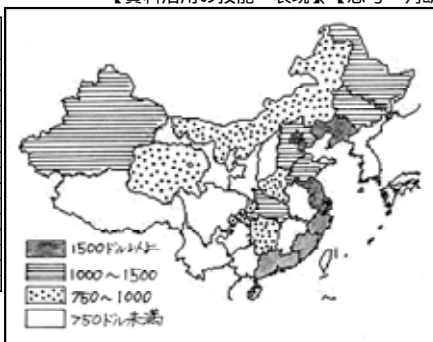
・軽工業製品に加えて重化学工業製品も多く輸出するようになった。

- 4 下の表を用いて主題図を作成しなさい。また、地図から読み取ることができる分布の特徴を、「沿岸部」「内陸部」ということばを用いて書きなさい。また、その特徴の背景を考えて書きなさい。

省別の1人あたりGDP

No.	省・自治区・直轄市名	1人あたりGDP(ドル)	No.	省・自治区・直轄市名	1人あたりGDP(ドル)
1	河北省	1107	17	陝西省	668
2	山東省	1408	18	甘肅省	543
3	河南省	778	19	四川省	697
4	山西省	743	20	貴州省	381
5	江蘇省	1740	21	雲南省	624
6	浙江省	2036	22	海南省	777
7	安徽省	703	23	内モンゴル自治区	876
8	湖北省	1006	24	江西チョウワン自治区	617
9	広東省	1817	25	新疆ウイグル自治区	1014
10	江西省	705	26	寧夏回族自治区	702
11	湖南省	794	27	チベット自治区	737
12	福建省	1632	28	北京市	3446
13	海南省	944	29	天津市	2706
14	遼寧省	1570	30	上海市	4915
15	吉林省	1008	31	重慶市	768
16	黒龍江省	1231			

(中国年鑑2004年版より作成)



分布の特徴

沿岸部の省や直轄市に比べて、内陸部の省や自治区は、1人当たりのGDPの値が小さいため、沿岸部と内陸部の経済格差は大きい。

背景

沿岸部は、農牧業などが中心の内陸部に比べて、経済特区があったり、人口が集中しているため、商業や輸出志向型の工業が発達しており、1人あたりGDPの値が大きいと思われる。

1の評価について

2つの写真を比較し、人々の生活の変化を、様々な面から適切に読み取っている。また、関心と問題意識が高く、中国の生活文化に着目して、意欲的に中国の地域性を見いだそうとしていることから評価をAとした。

評価Cの生徒に対しては、人々の服装や、写真の背景など着目する点を示して、学習に対する意欲を喚起する。

2の評価について

教科書や地図帳を利用して、指示された内容について、的確にまとめて説明したり、地図中に正確に記入していることから評価をAとした。

評価Cの生徒に対しては、教科書や地図帳の参考となる部分を指示し、内容のまとめ方や記入方法の例を示して、再度調べさせる。

3の評価について

2つの表を比較するために、それぞれの輸出額の数値を割合(%)に書き換えた上で、帯グラフを用いて適切にグラフ化している。

また、中国の貿易統計を、輸出額や輸出品目の変化などに着目して、貿易構造の変化について適切に読み取っていることから評価をAとした。

評価Cの生徒に対しては、同じようなデータを用いて比較している教科書や地図帳のグラフの例を示して、再度作成させる。

また、表やグラフの読み取りについては、年次の異なる貿易統計から変化を読み取る方法を確認させ、再度読み取らせる。

4の評価について

【資料活用の技能・表現】

表の数値を凡例にしたがって4段階に分けて塗り分け、値の高低をわかりやすく主題図に表現していることや、沿岸部と内陸部の違いに着目して地域性を読み取っていることから評価をAとした。

評価Cの生徒に対しては、異なる国の資料を用いて塗り分けた主題図の例を示して、どのように作成すればわかりやすい主題図になるかを検討させた上で、再度作成させる。

【思考・判断】

経済格差の背景を、沿岸部と内陸部の産業の違いや経済特区の有無、人口などと関連づけてとらえていることから評価をAとした。

評価Cの生徒に対しては、経済特区が設置されている地域を確認させたり、人口分布図と比較させたりして、沿岸部と内陸部の1人あたりGDPの値の違いを再度比較させる。